

◆蔵のまち信州須坂観光ガイドによる案内◆

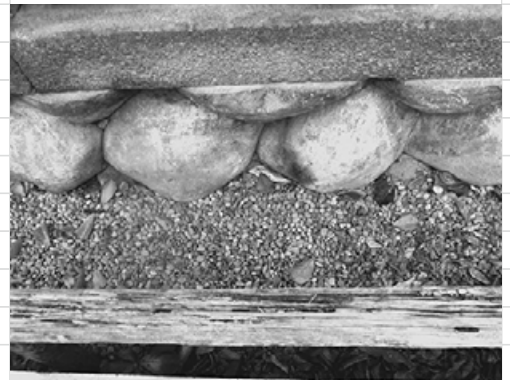
・蔵の町並み・

土蔵は、周りが火事でも中のものを守る。壁は厚くて窓は少なく、耐火になっています。

まゆぐらは、繭の品質を落とさないのが目的なので、壁はそんなに厚くなく、通気性を高めるため、窓が沢山あります。



下に石積みがあります。この辺では、これをぼた餅石積みと言います。明治なので、電動工具がない時代です。石工さんが1個1個削って作られています。さらに、その上に切石と言って四角い石があります。大きな石を四角く加工していて、とても高価です。他に瓦なども、家紋が入っています。



表面が全部漆喰で仕上げられています。漆喰は雨風に当たるとひび割れるので、頻りにメンテナンスしなければいけません。柱を結んで、柱と柱で板を結ぶと足場になる。これは職人さんの足場用です。必ず太い柱についていますので、抜けることはありません。



上の店は門が左側にあります。店舗はお客様の出入口、家主の出入口は必ず脇門にあります。須坂の町は、奥に長い家が多いです。門が開いているときは、奥に広がる庭を見て頂くのも、それぞれの家の特徴です。間口で税金を取っていたので奥に長くなります。下の店は間口が広いので、税金は倍になります。

しらふじという施設の蔵ですが、須坂の中で一番立派な土蔵だと思っています。ぼた餅石が大きくて道沿いに続いています。切石もかなり大きい一本の石です。その上の腰の部分は、砂利と漆喰を混ぜてコンクリートっぽく作っ



しらふじ

ています。当時の最新技術です。その上に露切りがあり、横殴りの雨が降ったときに一度ここで雨を切ることで、この下の壁を守ります。鬼瓦は大黒様、反対側には恵比寿様があります。



昔はその黒壁がトタンでした。交渉は一軒一軒いきます。ピンポン押して「壁やり直させてください。」って悪徳業者みたいですね。多い所は10回くらい行きました。顔を覚えられると、顔見た頃には後ろを向かれています(笑)。だけど人を代えていくと話をもう一回聞くので、しつこく「もういい、やるから来ないでくれ」ってくらいまでやります。

